



新毎日

発行所：北九州市小倉北区樹屋町13-1 電話(093)541-3131
郵便振替口座 01750-1-11038(福岡)
毎日新聞西部本社 ©毎日新聞社 2005
福岡市中央区天神1 毎日福岡会館
福岡本部 〒810-8561 電話(092)781-2121

佐賀で『世界』

失敗が大成につながる時がある。唐津市北波多に社屋を構える日本建設技術社長、原裕さん(56)の例がまさにそうだ。

10年前、知り合いの東京の化学メーカーから水を吸わない「軽い土」の開発を依頼された。土木工事の盛り土に使うためだ。ワインの瓶など従来はほとんど埋め立て処分されていた色付きガラスを使って「軽い土」を作ろうと考えた。粉碎したガラスに発泡剤を加えて焼くと、軽石のような物ができた。しかし、思惑とは

裏腹に、細かい穴から大量の水が吸い込まれた。

大量にできた失敗作を何かに応用できないか。試しに土と混ぜ、植物の種を入れて農道の斜面にまいた。すると、植物はみるみる成長し、失敗作を加えないものとは大きな違いが出た。通常は水を保ちにくい斜面で、重さの1・3倍も水を吸う抜群の保水力が生きたのだった。

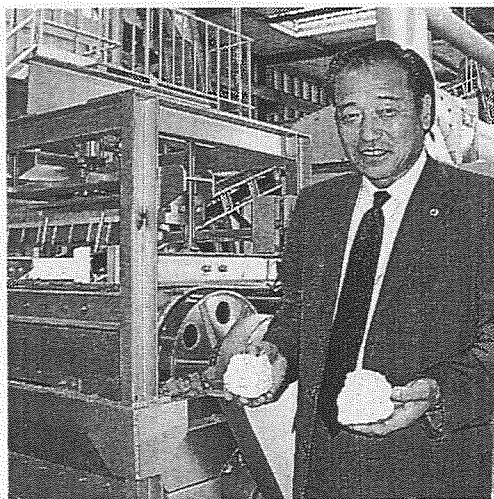
これまでモルタルを吹き

日本建設技術(唐津市)

付けた道路の斜面の緑化はできないと信じられてきたが、モルタルの上からこの発泡ガラス材で作った板を打ち付けたりして緑化を進めると、簡単に植物が根付く。この工法はあつという間に広まり、今では会社の売り上げの1割を占める。

最大の利点は、原材料が豊富で安価なこと。国内で年間200万トを生じる色付きガラスの廃材のうち、リ

発泡ガラス材で緑化推進



工場ですきたばかりの発泡ガラス材を手にする原社長

サイクルされるのは4分の1だけ。他は埋め立てなどで処分される。化学的に安定しているガラスだけに有害物質が溶け出る心配がなく、地下水などへの悪影響も考えにくいのもいい。

海の再生にも一役買う。ろ過材として有明海の土壌を改良するプロジェクトに使われているのだ。実は、発泡剤の種類と焼く温度を変えることで、当初目指した、ほとんど水を吸わない「軽い土」もほど

出され、諫早湾干拓事業でなく完成した。しかし、今影響を受けたとされる有明では最初の失敗作、保水力

のほかに水質浄化力にも優れた発泡ガラス材が、世界からも注目を浴びる。すでにエジプトやシンガポールなどから、水質浄化や屋上緑化の話が持ち込まれている。

「これまで全国を回って販路の開拓をしてきたので、これからいろいろと使ってもらえるようになるのでは。反応が楽しみです」と原社長は期待する。

一方で発泡ガラス材の表面に手を加えて、本来の性質を高めると同時に、肥料を保ったり、重金属を吸収したりする能力をプラスする実験も進む。実用化へ向けて新工場を本社横に建設し、9月にはすべての設備が完成する見込みだ。

【関野弘】